



仰木中学校だより



仰木野 桜丸

令和6年5月13日発行

第2号

生徒数 552名

HP版

「気持ちのよい挨拶」と「丁寧で正しい言葉遣い」で

人と人をつなぐ

～安心感と信頼関係を大切に／命と人権を守る～

- 1年生は、入学して1ヶ月余りが過ぎました。4月は、生徒会入会式や部活動オリエンテーションがあり、仮入部を経て中旬には本入部となり、仰木中学校の一員として本格的に始動しました。入学当初は、新しい環境に落ち着かない様子でしたが、今では毎時間先生が教科ごとになる授業にも、教室移動にも、休み時間の過ごし方にも、給食にも、放課後の部活動にも徐々に慣れてきて、中学校生活のペースがつかめつつあるように思います。朝、出会った時の元気の良い礼儀正しい挨拶に始まり、花の架け橋が描かれている中庭にたくさんの人が憩いに来るところや、廊下でロズさむほど校歌が体に馴染んでいるところ、給食をモリモリ食べるころは、とてもエネルギーを感じます。
- 2年生は、中堅学年として落ち着いたスタートが切れています。また、後輩ができ、部活動や生徒会活動などを通して、少しずつ先輩としての自覚が芽生え始めてきました。
- 3年生は、第1回の実力テストを終え、進路選択の一步を踏み出しました。また、進路説明会も終え、いよいよ仰木中学校の最終学年、最上級生であることをしみじみ感じているのではないでしょうか。自覚と誇りと責任をもって、自分で考え、判断し、正しい行動ができる生徒であってほしいと思います。
- 1年生には入学式で、2、3年生には始業式で、人と人をつなぐために「気持ちのよい挨拶」と「丁寧で正しい言葉遣い」をしていこうという話をしました。これを始めとして、これからも人と人が「安心」と「信頼」でつながり、誰もが人として大切にされる学校を、仰木中学校の全員で築いていきたいと思っています。

きらきら仰木中



生徒会入会式では、生徒会執行部の先輩から、中学校生活や生徒会活動についての説明を聞きました。↓



↑仮入部の時には、あらかじめ1年生向けの練習内容を考え、丁寧に、親切に教えてくれた先輩。1年生も礼儀正しかったです。



仰木の里学区更生保護女性会の皆さんからは『ティッシュ』を、
堅田少年センター/大津北警察署/少年補導員の皆さんからは『相談のしおり』をいただきました。



相談のしおりには、「迷ったら一人で悩まず、まず相談を」のことばと、美しい押し花が入っています。



↑新たに1年生の桜が加わり、昨年度より、さらに桜の木がひとまわり大きくなりました。外ステージでは、年中、桜花爛漫の景色が楽しめます。



仰木中学校は、令和3年度からコミュニティ・スクールとしてスタートしました。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくりを進める、法律(地教行法第47条の5)に基づいた仕組みです。「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」にしていくためには、「学校」と「地域」が、共有した目標に向かって、対等な立場の下で共に活動する、「パートナー」としての連携・協働が必要になってきます。委員の皆様をはじめ、地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【令和6年度 仰木中学校 学校運営協議会委員】(9名)

<会長>: 様 <副会長>: 様 <地域学校協働活動推進員>: 様
<委員>: 様 様 様 様 様 様 様

熟議

『目指す子どもの姿は?』 ~地域から見た中学生の姿から~

どんな大人になってほしいか

どんな力をつけさせたいか

- 挨拶は大事。地域のパトロールで出会うと「こんにちは」と言う子もいるが、挨拶をしても返ってこない子もいる。学校だけでなく、外に出た時に、挨拶ができるようになってほしい。挨拶は自分から先に。
- なぜ、大人がろうるさく「挨拶」と言うのか? 「真実の瞬間」:人は3秒で人を判断する。
挨拶を習慣にすると、社会に出てから得をする。挨拶が苦手な子もいるだろうから、そういう子を認めてあげることも大事。
- 挨拶を通じて顔なじみになり、子どものほうから声をかけてくれるようになった。出会うといろんな話もできるようになった。
- 子どもたちには、感情のコントロールをして、我慢強くなってほしい。
- 失敗は大事。失敗を恐れずにチャレンジしてほしい。
- 挑戦と失敗。型にはまったことだけでなく、挑戦を。
- 中学校は、今まで(小学校まで)生きてきた世界と違う。例えば、上下関係、相手に配慮しながらコミュニケーションをとること、きちんと状況判断をして発言することなど、コミュニケーション能力や人のつながりを学ぶようになる。
- 部活や行事などを通して学び、精神を成長させてほしい。
- 意見が言える子になってほしい。
- 仰木中が母校だと、心に残るような体験・経験をしてほしい。その機会を地域がどう作れるか。門戸を開けながら協力したい。
- 生き抜く力をつける。いろんなこと、理不尽なこともあるけれど、それに耐える力をつけることが大事。場合によっては逃げてよい。

1000年を超える歴史を持つ小椋神社の例祭

仰木泥田祭り

伝統ある仰木の祭りに中学生も参加!

小椋神社には、水をつかさどる神が祭られています。5月3日の仰木祭りが、別名「泥田祭り」と呼ばれているのは、毎年田植え前に降る雨の中で泥まみれになって祭礼を行うことが多かったからだそうです。美しい千枚田の棚田が広がる仰木の里の豊作を祈る雨の神様の祭りです。仰木太鼓が響く中、多くの人が集まりました。



伝統ある行事の中で、お稚児さんの警護役に任された中学生は、言葉遣いや行動に気をつけながら、一日、しっかりとその役目を果たしていました。



スローガンは『みんなで繋ぐ!』

けずって・つかんで・刺して・食べて・・・遊んで・ふざけて・叱られて・・・自然に学び、生命の尊さと集団生活のあり方について考えた

1年 葛川 ふるさと体験学習

串けずり



箸づくり



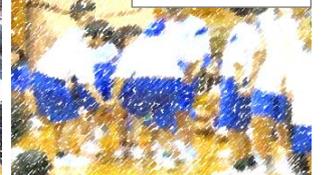
あまごつかみ/塩焼き



おいしかった食事



ロープリレー



ごはん/みそ汁 空っぽに



自主的に行動し、みんなが集まったら口をとして話し手に注目することや、トイレのスリッパをそろえること、自分の役割を果たすこと、自分以外の人のことを考えること等、集団生活のあり方や社会性を身につける宿泊体験でした。